

上海協力機構内の安全保障協力とその発展 および加盟国領土内のテロ組織

Korobochkina Alena

Abstract

This paper investigates the development of security cooperation within the Shanghai Cooperation Organization (SCO) framework and deals with the problem of the capacity of the SCO and the Regional Anti-Terrorist Structure of the Shanghai Cooperation Organization (SCO RATS). The main threats for security in Central Asia that acts as an important buffer zone for China and Russia highlighted the threat of terrorism, extremism and separatism, or "the three evil forces" as they are called in the Organization. Analysis of this issue also includes a description of terrorist and extremist organisations, which are the most influential in Central Asia at the moment. In addition, the author analyses the progress and problems that the SCO faces in the regional security sphere.

キーワード……上海協力機構（SCO） 地域反テロ機構（RATS） テロ組織 反テロ活動

はじめに

1991年のソビエト連邦の崩壊は世界的な結果をもたらした。果たして、この地域は、複雑な歴史的、民族的、社会的な関係を共有しているため、新独立国家は安全保障分野で最も強く変化を感じた。それ故に中央アジア諸国の治安状況は、複雑な国内や地域、国際的な課題によって悪化しており、様々な形態の伝統的および非伝統的な安全保障上の脅威に影響されやすい状況となっている。例えば、宗教的に動機付けされたテロリズム、過激主義、分離主義に加えて、薬物や武器、人身売買等の様々な組織犯罪は深刻な脅威である。薬物等の栽培や人身売買は、この地域全体で深刻な問題となっている。例えば、タジキスタンはロシアやヨーロッパへ違法薬物を輸送するためのアフガン麻薬の主要輸送国であり、タジキスタン、キルギスタン、カザフスタンをつうじて、毎年ロシアへヘロインやアヘンが約20～25トン輸送され、ロシア国内の麻薬販売での80%以上の組織犯罪グループが関与している¹⁾。同時に、麻薬の密売はこの地域で活動を行うテロ組織の主な資金源となっている。

過去数十年にわたり国際社会は、テロ組織の増加とその破壊的な影響の強化およびその成長の懸念を表明してきた。テロの問題は、直接または間接的にすべての国に影響を与え、それを解決するため相互に最も効果的なメカニズムを探索すべきである。言い換えると、テロに対する共通の戦略を開発し、その原因を排除するために、そして特別な情報を交換するため、国際

協力は反テロ活動の不可欠な要素なのである。

また、テロリズムは、地域によって独自の様相を持っており、これは結果的に地域の状況への統一された基準や政策関連規定の適用を必要とする。さらに国際的な経験は、現代のテロが各国の国境を越えて社会・政治的な現象であるため、諸国が単独でその問題を解決できない。

同時に、テロ犯罪に対抗するには、特に様々な国の法執行機関との相互作用に注意が必要である。また、国際安全保障システムの形成という文脈において、グローバルセキュリティシステムの大事な部分である地域機関は重要な役割を果たしている。中央アジアにおけるその地域機関として上海協力機構（以下、SCO）がある。

2001年に設立された時、SCOは地域の安全保障問題を中心議題とし、地域の安全、安定、発展にとって主たる脅威となっている国際テロリズム、宗教的過激主義、民族分離主義（中国のウイグル、ロシアのチェチェン、中央アジア3国に住んでいる「少数民族」）、麻薬・武器取引、不法移民問題について、共同で闘う決意をした。この目標により、SCO加盟国は多国間プログラムを作成し、必要な条約や協定を締結すること、司法、国境警備、税関、内務機関の指導者による定期的な会合を開催すること、本組織の枠組みでのテロ対策、暴力活動対策の演習実施等に合意した。さらに、SCOの常設機関として「地域反テロ機構[R-A-T-S]（以下、RATS）」を設置することも決議した²⁾。

現在、中央アジアは不安定になり、色々なテロ相識の活動が活発化している。例えば、2016年だけでいくつかの大きいテロ行為があった（2016年6月5日にアクトベ市、7月18日にアルマトイ市（両方ともカザフスタン）等）。さらに、2015年9月18日にRATS理事会の会談中にロシア連邦保安庁は、イラクとシリア両国にはイスラム過激派組織であるイスラム国（Islamic State in Iraq and the Levant, ISIL）に2,400人以上のロシア人、2,600人以上の中央アジア人が参加していると明らかにした³⁾。彼らは戦闘の経験を持ち、母国に帰る場合は大きなテロ行為を行うことができる。こうした理由から、本論文ではSCO加盟国の領土で活動を行う主なテロ組織を特定して分析し、SCOを地域の安全保障組織として位置づけ、SCOのRAT活動について分析をおこなう。

1 安全保障に関するSCOの行動および活動

SCOの発展は、中央アジアにおける安全保障と政治的問題に協力する必要性に起因していると思われる。また、SCOは安全を保障するため、「相互信頼、互惠、平等、協力」に基づいて新しいコンセプトを提案している。さらに、安全保障協力は拡大している。これには、国境の境界化、国境の武器削減、信頼醸成を通じた二国間関係の管理（この問題に関する協定はSCOの前身である「上海ファイヴ」の枠組みで調印された⁴⁾）、国境を越えたテロ活動や国境を越えた組織犯罪、非伝統的な安全保障上の脅威との闘い、地域の安全管理などが含まれる。

1-1 安全保障に関する SCO 発展の重要な段階について

SCO が設立された時にテロリズム、分離主義、過激主義との闘争は第一の目標になった。2001年6月15日に「テロリズム、分離主義、過激主義との闘争に関する上海条約（以下、「上海条約」）が締結され、テロリズムの性格、テロリズムの種類が定義された。しかし、その後は、SCO は安全保障と関係がある問題にも対象を拡大した。例えば、2004年に SCO 加盟国は「麻薬、向精神薬及びその前駆体の違法販売との闘争に関する SCO 加盟国間合意」、2005年に「テロリズム、分離主義及び過激主義との闘いに関する SCO 加盟国の協力の基本理念」の承認があり、「SCO 加盟国の特別な法執行機関によるテロリズム、民族分離主義及び過激主義の犯罪及び罪を犯す疑いで国際調査報告を出す統一捜査名簿に関する規定」を調印した。こうして、国際テロ、民族分離主義、宗教過激主義（まとめて「三悪」と通称）との闘争方法を決定するようになった。しかし、サイバー・サポータージュ攻撃が増加しているため、次年に「国際情報安全保障に関する上海協力組織の国家元首首脳声明」を決定し、RATS の枠組みで SCO 情報を保護する専門家グループが設立され、もう一回組織は安全保障協力分野を拡大した。

RATS の設置に関する決議が 2001 年に行われたが、実際は本機関の活動は、RATS の本部がタシケントに設置され、2004年6月17日にそこで会議が開催されてからはじまった。RATS は SCO の安全保障協力に関与する唯一の常設機関であり、活動調整、情報の共有、政策の立案と準備に不可欠な役割を果たしている。また、RATS は設立以来、多数の法的文書を準備してきた。さらに、RATS は、主要な安全保障協調、他の国際機関との調整、共同テロ対策軍事演習を強く支持してされる。本機関は地域・国際テロ対策組織との協力関係を確立している。例えば、RATS は、2007年に集団安全保障条約機構[C-S-T-O]（以下、CSTO）と「SCO 機構事務局と CSTO 機構事務局間の了解覚書」、2009年に独立国家共同体（以下、CIS）テロ対策センターと議定書などを承認した。

そして、RATS はサイバーセキュリティの問題に取り組み、様々な対策を準備している。2012年に RATS は「三悪」によるインターネット使用防止やその目標としてインターネット使用と闘争に関する共通措置を策定した。そのため、RATS はサイバーテロ対策に重点を置いた専門家作業グループを設置した。また、2015年10月14-16日には RATS の主催で「廈門 2015」というインターネットでの反テロ指揮幕僚演習の第1回目（テロリスト、分離独立や過激派の目的でのインターネット使用に対抗する演習）が行われた。

また、2015年に安全保障に関する協力分野を拡大し、SCO 任務の優先順位は、テロリズム、分離主義、宗教的過激主義との戦闘だけでなく、麻薬や武器、爆発物、放射性物質や核物質、ならびに他の大量破壊兵器の構成部分の違法販売、国際組織犯罪との闘い、国際的な情報に関する安全保障、国境の安全保証の強化、不法移民および人身売買、資金洗浄や経済犯罪、汚職との共同の戦いも含むようになった。

1-2 SCO 枠組みにおける「三悪」との闘いについて

2002 年以来、SCO の枠組みの中で二国間・多国間の 20 以上の共同反テロ軍事演習が開催された。また、反テロ演習に加え、SCO の加盟国の法執行機関や権力機構も共同軍事演習を行った（表 1 参照）。その上、中国と SCO のオブザーバー国であるインドとパキスタンは 6 回共同反テロ演習、海上と陸上で共同捜索・救助などの活動を行った。

SCO の共同反テロ軍事演習は毎年行なわれ、毎回新たなメカニズムや計画を開発し、運動の特定の目的を設定している。具体的には、SCO 加盟国の中で緊密な軍事関係を持っている中国とロシアは定期的に共同軍事演習を開催している。これらの軍事演習の主な目的は、SCO 加盟国、地域の平和と安定の保証との間の軍事的相互信頼を強化し、加盟国間の安全保障協力のレベルを高めることである。

しかし、共同反テロ軍事演習は毎年開催されているにもかかわらず、国境を越えるテロ活動が行われる場合、SCO 加盟国がどのように対応すべきであるかが問われる問題が急迫している。アフガニスタンから米軍が撤退した後、国に残っているタリバンは、復讐をしたいと思う可能性が高い。例えば、2016 年 6 月にタジキスタン国家保安委員会の第一副会長ラジャバリ・ラフモナリによると、約 1,500 人の闘士（ISIS のテロリストを含む）は、アフガニスタンとタジキスタンの国境近くに集結している⁵⁾。さらに、ISIS はイラクとシリアにおいてより多くの暴力的なテロ活動を行ってきて、これは中央アジアの第三勢力の活動を刺激する可能性がある。その上、演習はテロリストグループの場所から離れた距離でわれるので、その演習の抑止効果を評価することは困難である。RATS はテロとの闘いのための緊急対応部隊がないし、SCO は緊急事態に対応するためのメカニズムも持っていない。その理由で、本組織には最新の出来事に対応できる方法もないのが現状である。

そしてもう一つの問題は、SCO のオブザーバー国と対話パートナーが共同反テロ活動や軍事演習に参加していないということである。例えば、ウズベキスタンは SCO 加盟国であり、テロ攻撃を受ける危険があるにもかかわらず、反テロ活動軍事演習にあまり参加しない。他方、インドとパキスタンにテロの問題があるため、両国が共同反テロ活動に参加する場合、本活動の効果を高めることができる。トルコは SCO の対話のパートナーであり、汎テュルク主義と汎イスラム主義の実現の減退および東トルキスタンのテロ勢力との戦いに役割を果たすことができる。

表1. SCOの加盟国における共同反テロ・軍事演習についての情報

年月日	場所	コード名	参加国	参考
2002年10月10-11日	中国・キルギスタン国境地帯	演習01	中国、キルギスタン	テロとの闘いを高度化するための演習。 外国軍隊との人民解放軍の最初の合同軍事作戦。また、SCO 枠組みにおける最初の二国間の反テロ演習
2003年8月6-12日	カザフスタン、キルギス、中国の国境地帯	コーリシヨン2003	中国、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、ロシア	1,000人超の軍人参加。SCOの枠組みにおける最初の多国間の反テロ演習
2005年8月18-25日	遼東半島周辺（中国）（ロシアのウラジオストクで指揮所演習）、チェリャピンスク周辺（ロシア）（中国のウルムチで指揮所演習）	平和のミッション2005	中国、ロシア	10,000人の軍人参加。中国とロシアの間の最初の合同軍事演習、チェリャピンスク周辺の演習でSCOの正加盟国、オブザーバー：イラン、モンゴルも参加
2006年3月2-5日	ウズベキスタン	東-反テロ-2006*	SCOの正加盟国	SCOのRATSが主催
2006年8月24-26日	アルマトイ（カザフスタン）、新疆ウイグル自治区（中国）	天山1(2006)	中国、カザフスタン	法執行機関及び安全保障省が主催。中国の700人の国境警備隊員が参加。SCOの枠組みにおける中国とカザフスタンの間の最初の反テロ演習
2006年9月22-23日	クリャーブ（タジキスタン）	コーリシヨン2006	中国、タジキスタン	中国の150人の軍人、タジキスタンの300人の軍人参加。中国とタジキスタンの間の最初の反テロ・軍事演習
2007年5月28-31日	キルギスタン	イシク・クル・反テロ	SCOの正加盟国	SCOのRATSが主催。SCOのオブザーバー国、CSTO、CISの反テロセンター

上海協力機構内の安全保障協力とその発展および加盟国領土内のテロ組織（Korobochkina Alena）

日		-2007		の代表者も参加
2007年8月9-17日	チェリヤビンスク周辺（ロシア） （中国のウルムチで指揮所演習）	平和のミッション 2007	中国、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、ロシア	6,000人超の軍人参加（中国1,700人、ロシア2,000人）、兵器類：1,000台。 初めて全SCOの正加盟国参加。SCOのオブザーバー国であるイラン、モンゴルも参加
2008年8月18日～9月4日	ボルゴグラード市（ロシア）	ボルゴグラード - 反テロ -2008	SCOの正加盟国	SCOのRATSが主催。コンバットチーム：6、ヘリコプター：2機（空挺部隊を含む）、艦船：1艦。CSTO、CISの反テロセンターの代表者等もオブザーバーとして参加
2009年4月22-26日	ノラーク市（タジキスタン）	ノラーク - 反テロ -2009	カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、中国、ロシア	SCOのRATSが主催。空軍を使用：飛行機及びヘリコプター：4機超、兵器類：10台超。国連、OSCE、米国、パキスタン、インド、イランの代表者等もオブザーバーとして参加
2009年7月22-26日	瀋陽周辺（中国） （ロシアのハバロフスクで指揮所演習）	平和のミッション 2009	中国、ロシア	中国とロシアからそれぞれ1,500人参加、兵器類：300台、飛行機及びヘリコプター：56機超
2010年8月16-26日	サラトフ市（ロシア）	サラトフ - 反テロ -2010	SCOの正加盟国	SCOのRATSが主催。インド、パキスタン、CSTO、CISの反テロセンターの代表者等もオブザーバーとして参加
2010年9月9-25日	カザフスタン	平和のミッション 2010	中国、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、ロシア	中国、ロシア、カザフスタンからそれぞれ1,000人の軍人参加。兵器類：300台超、飛行機及びヘリコプター：50機超 SCOのオブザーバー国、対話パートナー国、アゼルバイジャン、ウクライナもオブザーバーとして参加
2011年5	カシュガル市	天山	中国、キルギスタン、	安全保障省が主催。インド、パキスタ

月 6 日	(中国)	2(2011)	タジキスタン	ン、モンゴルの代表者もオブザーバーとして参加
2012年6月2-5日	ウズベキスタン	東-反テロ-2012*	ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン	SCOのRATSが主催。SCOの正加盟国、CSI反テロセンターの代表者もオブザーバーとして参加
2012年7月14-16日	タジキスタン	平和のミッション 2012	カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、中国、ロシア	計約2,000人の軍人が参加、兵器類及び飛行機：500台超
2013年6月27日～8月15日	カザフスタン	カジェルグールト・反テロ-2013	カザフスタン	SCOのRATSが主催。SCOの正加盟国、CSI, CSTO、国連等の代表者もオブザーバーとして参加
2013年7月27日～8月15日	チェバルクリ周辺(ロシア)	平和のミッション 2013	中国、ロシア	計約2,000人の軍人参加(中国とロシア)、兵器類：250台(20機の飛行機含む)
2014年3月27日	ウズベキスタン	東-反テロ-2014*	ウズベキスタン、キルギスタン	SCOのRATSが主催。SCOの正加盟国参加
2014年8月24-29日	内モンゴル、中国	平和のミッション 2014	カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、中国、ロシア	計約7,000人の軍人参加
2015年4月21-25日	キルギスタン	平和のミッション 2015	カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、中国、ロシア	
2015年9月15-17日	キルギスタン	中央アジア・反テロ-2015		SCOのRATSが主催。
2016年9月15-21日	キルギスタン	平和のミッション 2016	カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、中国、ロシア	計約2,000人の軍人参加、兵器類及び飛行機：340台超
2016年10月19日	タジキスタン	協力2016	ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン	SCOのRATSが主催。中国、ロシアはオブザーバーとして参加

(出典) RATSの公式ウェブサイト情報に基づいて作成、<<http://ecrats.org/ru/>>,最終閲覧日：2016/11/10

上海協力機構内の安全保障協力とその発展および加盟国領土内のテロ組織（Korobochkina Alena）

*「東-反テロ」という訓練は英語で”East-Antiterror”である。

2 テロ・宗教的過激組織・民族分離組織

2006年4月4日に行われたRATS執行委員会の最後に、同委員会は、RATS加盟国の共通の尽力の結果、少なくとも15人のテロ組織の指導者の違法行為を排除することができたとしている。さらに、RATSの情報によって、SCO加盟国の中で250回以上のテロ攻撃が防止されている。そして、テロに関する統一データベースの中では「テロリズム、民族分離主義および過激主義の犯罪およびその疑いで国際調査報告を出す統一捜査名簿」が承認されたことが挙げられている⁶⁾。その上、この「統一捜査名簿」にもとづいて、「SCO加盟国の国家安全保安局および特別な法執行機関の統一捜査名簿」が編集され始めている⁷⁾。

また、RATSは「SCO加盟国地域で活動を禁止するテロ・宗教的過激組織・民族分離組織の一覧」を作成している。同上のRATS執行委員会では以下の15のテロ組織が公表された。コーカサス首長国（Supreme Military Majlis ul-Shura of the United Mujahideen Forces of Caucasus）、Riyad-us Saliheen、アルカイダ、イチケリアとダゲスタンの人民代表大会（People's Congress of Ichkeria and Dagestan）、アスバト・アルアンサル、ジハード（Al-Jihad）、イスラム集団、イスラム兄弟団、ヒズブアッタハリール・イスラミ（Hizb ut-Tahrir Al-Islami）、ラシュカレ・タイバ、タリバン、トルキスタン・イスラム運動、イスラム協会、社会改良社会（Jamiat Ihya at-Turaz al-Islami）、アル・ハラマイン）。その他、シャミル・バサエフ（Shamil Basayev）を筆頭に400人のテロリスト・リストを承認した。同時にFSB第一副局長スミルノフ（Sergey Smirnov）は「最近我々はウズベキスタンに、ヒズブアッタハリール（Hizb ut-Tahrir）の19人を引き渡した」と声明を出した⁸⁾。

また、「テロリズム、民族分離主義及び過激主義の犯罪及び罪を犯す疑いで国際調査報告を出す統一捜査名簿」は随時更新される。さらに、「SCO加盟国の領土で禁止されているテロリスト、分離独立や過激派組織のリスト」を保持する。RATSの最高行政担当者である執行委員会議長のジュマンベコフ（Dzhenisbek M. Dzhumanbekov）⁹⁾によると、2010年において「統一捜査名簿」はテロ、分離独立、過激派の活動の犯罪の疑いがあるため国際指名手配リストに記載されている1100人以上を含んでいる。また、「SCO加盟国地域で活動を禁止するテロ・宗教的過激・民族分離組織の一覧」は42のテロ組織まで拡大された¹⁰⁾。

しかし、現在はSCO加盟国の領土において最大の影響を与えているテロ・宗教的過激・民族分離組織として認めている組織は以下である。

2-1 ウズベキスタン・イスラム運動

ウズベキスタン・イスラム運動は1996年に原理主義者のタヒル・ユルダシェフによって結成

された。米 국무省の分類によれば、本組織は最も危険な国際テロ組織のリストに入っている。ウズベキスタン・イスラム運動の目標は、武器を取って力で世俗的な体制を打倒し、イスラム教の国家と置き換えることである。1990年代の終わりに、本組織は、暴力およびテロ活動に焦点を当てた。また、その組織の特徴は、第一に、イスラムサラフィーのピューリタニズムあるいは、信者でイスラムの規範を遵守すること、第二に、イスラム主義者が犯罪や汚職を根絶することが可能であることを国民に示すため、国内で政治の実権を握る前に一部の地域で行政権を実施してみること、第三に、社会正義と平等の理想を説くこと、第四に、シャリーアの規則に基づいて、イスラム国を設立するという目標である¹¹⁾。

1997年6月にタジキスタン内戦は終結し、ウズベキスタン・イスラム運動は武装闘争に参加できなくなり、本組織の工作員がアフガニスタンへ移動した。しかしその後は、数回にわたって、タジキスタンの領土からキルギスタンおよびウズベキスタンへの侵入を試みている。例えば、1999年に本組織はキルギスタン南部およびウズベキスタンのスルハンダリヤ州で政府軍と衝突し、同年2月16日にタシケントで一連の爆破を実行している。その結果、16人が死亡、数百人が負傷した。同時にこのテロ行為は、宗教過激派に対する対抗の強化につながっていた。また、2000年秋に本組織の工作員も一回ウズベキスタン（フェルガナ盆地）に侵入している。フェルガナ盆地では武器や弾薬も事前に準備されたが、侵入は失敗した。しかし、2001年にウズベキスタンとイスラム主義者の対決が強化され、大規模な行為が展開する脅威が発生していた。その時にアフガニスタンではウズベキスタン・イスラム運動の同盟グループであるタリバンがウズベキスタンとの国境に近づいていた。この機会を使用したウズベキスタン・イスラム運動はアフガニスタン北部でいくつかの工作員の訓練場を造成していた。

2001年に始まったアフガニスタン紛争中にはウズベキスタン・イスラム運動はタリバンと一緒に北部同盟及びアメリカ軍と闘った。しかしウズベキスタン・イスラム運動のリーダーであるナマンガニが戦死した後、ユルダシェフは残党とともにパキスタンに移動し、2002年以降アルカイダとの関係を深めている。

2003年にウズベキスタン・イスラム運動はトルキスタン・イスラム運動に融合した。新組織の目標は、政府の憲法体制を打倒し、イスラム国家を設立することを宣言した。また、本組織は米国 국무省の最も危険な国際テロ組織リストに記載され、国際機関やイスラム諸国でウズベクの少数民族からの財政支援を受けた。

ユルダシェフは、2009年8月に南ワズィーリスターン・カニゴラムで無人航空機の攻撃を受け死亡し、そして、ユルダシェフの後継者としてウスマン・アディールが指名された¹²⁾、さらにその後ウスマン・ガズィが後継者として指名された。

そして、2014年10月にトルキスタン・イスラム運動はISILに入り、パキスタンとアフガニスタンの国境地域での採用と研修過激派を強化しているという報告があった。また、2015年8月に本組織は自己破壊およびISILに合同について発表した。

2-2 タジキスタン・イスラム復興党

ソ連のイスラム復興党はアストラハン（現在はロシア）で1990年6月に設立された。そしてウズベキスタンで行動し始めたが、すぐに政府によって非合法化され、組織のメンバーやサポーターは、秘密裏に作業を続けた。組織の基本理念は、シャリーアの規則に基づいてイスラム教を実践することであり、目的としては法的、民主主義国家を構築することであると宣言された。タジキスタン内戦（1992-1997）の時にタジキスタンのイスラム復興党は、タジキスタン野党の一部であった人民戦線に反対した。結果として、本組織は非合法化され、1997年6月にタジキスタン内戦が終結した後、政治活動に戻った。野党であると同時に、本党は支配エリートだった。そのため、タジキスタン・イスラム復興党は政治的に生き残ったが、政府に対する反対の態度を軟化された。イスラム諸国との接触を維持し、イスラム基金から援助や融資（助成金、書籍、奨学金等）を得ると同時に、復興党は欧州安全保障協力機構（以下、OSCE）との関係を発展させ、欧米諸国に焦点を当てた。結果として、本党は立派で責任あるパートナーとして認識されるようになった。2005年2月の選挙で、タジキスタン・イスラム復興党は最高議会で7以上の議席（現在はタジキスタンの最高議会は二院制で、上院にあたる国民議会（33議席）と、下院にあたる代表者会議（63議席）で構成されている）を得ることを望んでいたが、実際は2議席がとれただけだった（2010年2月の選挙でも2議席を得た）。また、2015年3月における最高議会選挙で、復興党は投票の1.5%を獲得し、5%の障壁を克服することに失敗した。そして、2015年8月28日にタジキスタンの法務省は、地域での大部分の同党細胞が活動を停止したため、指導部から復興党の活動を停止するように要求していた。ほどなく、復興党の党首であるムヒッディーン・カビリがタジキスタンを退去した。その一か月後、9月17日にタジキスタン検事総長は上級管理職を含む復興党の13党員の拘留を確認し、タジキスタンの元副国防相、アブドハリモフ・ナザルゾダ（タジキスタン政府によると、2015年8月にアブドハリモフ・ナザルゾダは反乱を起しており、同年9月16日に殺された。）とその犯罪関係を非難した¹³⁾。タジキスタン検事総長によると、ナザルゾダはムヒッディーン・カビリの直接の監督下では20以上のテロ組を集めて武装させ、これによってタジキスタンの状況を不安定にすることを計画した。また、2015年9月29日のタジキスタン最高裁判所の決定はタジキスタン・イスラム復興党をテロ組織として認めた。

2-3 ヒズブアッタハリール

ヒズブアッタハリールは、1953年にエルサレムでシェイク、タキユッディン・アル・ナブハニ（Taqiuddin al-Nabhani）によって設立された。短時間で、本組織は西アジア、北アフリカや東南アジアで人気を得た。組織の本部はロンドン（イギリス）にあった証拠があるが、2005年7月のロンドンの爆破事件後に欧米諸国からヒズブアッタハリールへの圧迫が増加し続けていることから、現在でもその本部がイギリスに存在しているかは、定かではない。また、組織の

資金源は不明であるが、イデオロギーを広めるために、書籍やパンフレット、リーフレットを発行している。さらに、現在、ヒズブアッタハリールはより多くの人に発信するために、本組織のウェブサイトを使用している¹⁴⁾。

中央アジアではこの影響力のある国際組織は1990年代に登場した。現在はヒズブアッタハリールはロシア、中国、全ての中央アジア諸国では非合法化されている¹⁵⁾。しかし中央アジアにおけるこの組織の運動について最初の情報は1992年～1993年にタシケント(ウズベキスタン)でリーフレットを広める時に発生した。徐々にヒズブアッタハリールの活動は、中央アジア全土に普及した。現在は、本組織の影響は、キルギスタンのオシ州、ジャララバード州、バトケン州、カザフスタンのテュルクスタン区及びアルマトイ州、タジキスタンのソグド州、ウズベキスタンのフェルガナ州及びタシケント州で顕著である。1990-1998年では組織の主な活動は、宗教的プロパガンダ及び新しいメンバーの募集に焦点を当てていた。

1999年2月16日のタシケントでの爆発は、組織の発展の新たなステージが始まったことを意味していた。組織のメンバーは公然の場所で公開でチラシを配布し始めた。また、2001年にヒズブアッタハリールはアルカイダ及びタリバン、ウズベキスタン・イスラム運動に加入した。共通の目標は、世界中のカリフ制政体(イスラム帝国)の設立になっていた。究極の目標を達成するために、組織は急進的な方法を使用している。また、ウズベキスタン・イスラム運動と同じように政府の憲法体制を打倒する目的もある。

タジキスタン及びキルギスタンではヒズブアッタハリールは、タジキスタン・イスラム復興党の深刻なライバルとなっていた。タハリールは、社会的な問題の解決に集中し、新しいメンバーを引き付けている。特に若い人、知識人、女性に焦点を当てて、イデオロギー的な教育を行っている。2016年10月にオシ市(キルギスタン)でISISの過激派の資料を持ったヒズブアッタハリールの女性派の首長を収監した¹⁶⁾。さらに10月上旬にキルギスタンのヒズブアッタハリールの地下細胞の活性化を抑制した。また、2015年からロシアでも本組織活動は拡大し、2016年11月にサンクトペテルブルク(ロシア)でも本組織の地下細胞メンバーである9人、同年10月にクリミア半島で5人を拘束した¹⁷⁾。

2-4 アクラミア

アクラミアは、アクラム・ユルダシェフ(Akram Yuldashev)によって設立されたイスラム過激派組織で、ヒズブアッタハリールの新しいブランチである。ユルダシェフの基本的な考え方は、ウズベキスタンにおいて暴力的にイスラム国家を創造することである。ユルダシェフは、精神的な開発およびイスラム教の勉強の損害にならない場合には、金融的繁栄を排除しないため、宗派の支持者の間にはビジネスマンが多い。

ウズベキスタン政府が2005年5月13-14日にフェルガナ盆地アンディジャン市で起こった暴動を鎮めた後、この組織は広く知れ渡ることとなった。この暴動は、アクラミアに入っている

ビジネスマン達の逮捕によって引き起こされた。ウズベキスタンのイスラム主義者ババドジャンノフ（Babadzhanov B.）によると、本テロ組織は 1980 年代後半の宗教的なルネサンスのコンテキストで発生し、社会の末端に存在する若い知識人を含む全ての社会層に影響を与えた。さらに、ババドジャンノフはアクラミアを小さな宗教団体、特別な社会的・宗教的な変異グループと見なす¹⁸⁾。

2014 年 3 月 14 日にアクラミアの活動はキルギスタンで非合法化されたにもかかわらず、現在はキルギスタンのオシュ州で積極的に発展している（特にウズベク人のコミュニティ内）。

2-5 東トルキスタン・イスラム運動

東トルキスタン・イスラム運動（Eastern Turkistan Islamic Movement、略称 ETIM）は東トルキスタン・イスラム党、アッラーフの党、東トルキスタンの民族革命戦線としても知られており、最も危険なテロ組織の一つである。ETIM は 2003 年 12 月 15 日に中華人民共和国公安部によってテロ組織として承認された最初のリストに含まれており、SCO の RATS の執行委員会の決定で「SCO 加盟国地域で活動を禁止するテロ・宗教的過激・民族分離組織の一覧」に入れられた。

2008 年に禁止された ETIM の公式サイトによると、組織の歴史は 1940 年代に形成されたトルキスタン・イスラム党に始まるが、公式には 1993 年に設立され、同年に一度解散した¹⁹⁾。1997 年には、組織は最高指導者ハッサン・マフスームおよびアブドゥカディル・ヤブケンによって再設立された。組織の主な目標は、中国をテロ活動の方法で粉砕し、新疆の領土に「統一東トルキスタン・イスラム国」の設立することである。

ETIM はアルカイダ、タリバン、ウズベキスタン・イスラム運動、チェチェンや他のテロ組織との密接な関係を持っており、2001 年にアフガニスタンのトラボラに拠点を据えた²⁰⁾。また、ETIM のテロリストがアフガニスタンのカブール、マザリシャリフ、クンドゥズ、ヘラート、カンダハル、ワルダック、シバルガネでのキャンプで訓練を受けたことが知られている。さらに、タリバンの中では「中国のトルキスタン大隊軍」（320 人参加）が設立された²¹⁾。

1999 年に ETIM の過激派が暴力団組織としてウズベキスタンとキルギスタンの南部地域の侵略に参加した。また、ETIM のテロリストはロシアのチェチェン共和国で武装グループの一部として戦闘に参加した。

2003 年 10 月に米軍とパキスタンの共同作業の結果として南ワジリスタン（パキスタン）でハッサン・マフスームが死亡した後²²⁾、長期間、組織が現れておらず、公開情報源にも情報が消えていた。しかし、2006 年に新たなリーダーがアブドゥル・ハクであることが知られるようになった²³⁾。その後、ETIM の構成を形成し、アルカイダの会則を採用し、組織の活動は拡大した。また、その時には組織の攻撃の性質および目的の選択方法が変化した。1990 年代には ETIM の対象は、中国当局やプロ中国のイスラム聖職者となり、2000 年代の後半には警察官や

警備員となっている。結果として、テロ攻撃の被害者は、一般の通行人となり、メディア素材からのデータによれば、2014年だけに中国で起こったテロで70人以上が死亡し、310人以上が負傷している。

現在はETIMはアル・ヌスラ戦線の側に立ちシリアで活動している。

2-6 共通の目標

上記のすべてのテロ・宗教的過激・民族分離組織の全体的な目標は中央アジアにおいて神政国家を創造することである。その目標を達成するため、一般に次のことを課題とする。

- 既存の憲法体制の打倒およびイスラム・カリフ制を形成すること
- イスラムの政治化
- 同様の目標を設定している外国のイスラムセンターや団体と信頼性の高い通信リンクを作成すること
- イスラム政党の政治的なニーズのための資金を使用すること
- 政治的安定を損ないおよび政府の世俗的な形の信用を落とすため、政府機関へ組織のメンバーを送り込むこと
- イデオロギーを拡大し、より多くの若者を引き付けるために、インターネットやソーシャルネットワークを積極的に活用すること

3 安全保障協力の進展および問題

ただし、直接または間接的にテロ・宗教的過激・民族分離組織やグループの活動に資する内部要因も存在している。これは以下の原因を含む。

- 社会経済的な問題（特にフェルガナ盆地の農村地域および中国の新疆自治区）
- 政府が国内で実施する社会的、宗教的、政治的なプログラムについて信頼性の高い情報および透明性の欠如
- 中央アジア諸国、ロシアの様々なムスリム評議会との間の協力と調整の欠如
- 地域諸国における情報共有および共同訴訟に関連する法執行協力の不足

SCOの安全保障協力は、共通の懸念や関心、一般的に認識されている脅威と課題に対処する方法に基づいている。さらに、SCOの加盟国（特に中国とロシア）は、より規範的な基準で安全保障・政治協力を統合したいために、共通の価値観を促進し相互信頼を強化しようとしている。SCOの組織としての明らかな進歩は、SCOの法的・制度的設定、行う活動や軍事訓練に示唆されている。しかし、進歩は期待より遅いと思われる。SCOのRATSの枠組みで情報共有および共同訴訟に関連する法執行協力を展開しているが、大部分の情報は秘密で、資金不足などの理由のために、地域の安全保障の協力やSCOの対策について情報が不足している。また、安

全保障協力は政治指導者および政府関連のエリートによって支えられている。現在は、SCO 加盟国のリーダーは組織の規範と価値観を共有しているが、加盟国内にこれらの価値が浸透しているかどうかは不明である。従って、加盟国のリーダーが変わる場合は、組織の価値観、目的なども変更できるし、安全保障協力発展に影響を与える。言い換えると、SCO の安全保障協力は具体的な文脈に依存するため、より不安定である。その結果として、組織の範囲、制度などは確立されているが、その有効性は不十分である。

もう一つの問題は、SCO の枠組みにおける中国とロシアの指導的役割である。中国とロシアが価値観、目標を共有する場合、協力は発展している。その協力の例は、以上に述べた共同軍事演習である。しかし、中国とロシアの価値観や目標が異なっている場合、意見の一致を得ることができなくなるし、加盟国は二国間で協力を実施している。例としては 2016 年 10 月 28 日にタジキスタンと中国は、安全保障、反テロ協力（情報交換、実務経験の交換など）の拡大について声明を発表した²⁴。その前に、10 月 20 日～24 日にタジキスタンの軍事訓練場（アフガニスタンとの国境に近い）では中国・タジキスタン共同反テロ戦術の演習を行った。2016 年までにタジキスタンは安全保障の問題でロシア、ロシアが管理する集団安全保障条約機構に依存したが、最近、安全状態は悪化し、タジキスタンは新たな強力な協力者を探している。

逆に、軍事安全保障協力の問題に関してウズベキスタンは、米国と NATO との関係が悪化する恐れがあるため、国防相会議や共同軍事演習に参加することを拒否していた。しかし、カリモフ政権の少数民族政策に対する西洋の批判が強化された時、ウズベキスタンと米国の関係が悪化し、その結果として 2006 年 3 月 2-5 日に行った「東・反テロ-2006」という軍事演習に他の SCO の加盟国とともに参加した。また、当初、キルギスタンのビシュケクで開催される予定だった RATS はウズベキスタンのタシケントで開かれた。

そして、中央アジアにおけるいくつかの多国間メカニズムが共存し（集団安全保障条約機構、CIS テロ対策センター、OSCE など）、これも SCO の影響を縮小させている。ロシアは、可能であれば、中央アジアにおける主要な治安機構として CSTO に焦点を当てる戦略的意図を保持している。同時に中国は地域での影響力を促進するため、他の多国間グループとの競争で SCO を擁護し、二国間協力を発展しなければならない状況にある。

おわりに

SCO は、加盟国の国境を警備する組織から地域反テロ機関や国際関係の主体に進化してきた。本組織は、政治的、経済的、社会的、環境的要因を留意しながら、少しずつ安全保障の理解を拡大し、国際的な安全保障協力を活発に展開している。これを証明するのは、調印された「上海条約」、反テロ活動に関する合意や協定、反テロ軍事演習などである。また、多くの共同努力は、第三勢力やその他の非伝統的な安全保障上の脅威に向かっている。SCO 加盟国はテロに対

する共同闘争で豊富な経験を蓄積してきたが、より効率的な安全保障協力を確保するために、SCO の能力を高める必要があると思われる。

そのため、SCO 枠組みにおける SCO 加盟国間の協力を強化すべきである。その上、SCO のオブザーバー国と対話パートナー国は、例えば共同反テロ軍事演習への参加を通じて、安全保障の問題に関する対話をいっそう積極的にする必要はある。共同反テロ軍事演習中に、諸国の政策に柔軟性が必要とされる。そのため、SCO の参加国に反乱や暴動が発生した場合、SCO は特定の対応メカニズム（緊急対応部隊の組織など）を準備すべきである。また、SCO は共同反テロ軍事演習やテロリストの抹殺などの方法を含む CSTO との協力を強化する必要があると思われる。

<注>

- 1) “Через Таджикистан, Киргизию и Казахстан в Россию ежегодно перевозится порядка 20-25 тонн героина и опия”, *Официальный сайт Федеральной службы Российской Федерации по контролю за оборотом наркотиков*, 14.09.2012 (「毎年ロシアへヘロインやアヘンの約 20~25 トンの輸送」、ロシア連邦麻薬流通監督庁の公式ウェブサイト, 2012年9月14日), <<http://fskn.gov.ru/includes/periodics/gaknews/2012/0914/200120383/detail.shtml>>, 最終閲覧日: 2016/10/14
- 2) “Декларация о создании Шанхайской организации сотрудничества”, 15.06.2001, (「上海協力機構 (SCO) 創設宣言」, 2001年6月15日), <<http://www.sectSCO.org/RU123/show.asp?id=83>> 最終閲覧日: 2016/10/05
- 3) “ФСБ: свыше 5 тысяч граждан из России и стран Центральной Азии воюют на стороне ИГ”, *Информационное агентство России «ТАСС»*, 18.09.2015 (「ロシア連邦保安庁: ロシア及び中央アジア諸国の 5000 人以上が ISIL の側で戦っている」、イタルタス通信, 2015年9月18日), <<http://tass.ru/politika/2272750>>, 最終閲覧日: 2016/11/25
- 4) 「上海ファイヴ」は 1996 年に旧中ソ西部国境に属する諸国 (4 (ロシア・カザフスタン・キルギスタン・タジキスタン) + 1 (中国)) によって設立された組織である。1996 年 4 月 26 日に「ロシア、カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、中国の国境地区軍事領域での信頼強化についての協定(上海協定)」が調印された。協定は、国境地域に配備している軍力が互いに攻撃しないこと、相手方を目標とする軍事演習を行わないこと、軍事演習の規模や範囲、回数を制限し、相互にオブザーバーを派遣しあうこと、国境から 100 キロ以内での軍事活動状況を相互に通報し合うこと、危険な軍事活動を防止すること、国境地域での軍力と国境防衛部隊の間の友好的な往来等を規定していた。1997 年にロシア連邦、カザフスタン、タジキスタン、キルギスタン、中国との間の国境地域の武力相互削減協定が調印された。これによって、国境の両側 100 キロメートル以内に駐留する兵員数、武器装備の上限水準が設定され、冷戦思考の放棄、「ブロック政治」への反対、当事国間の「安定と信頼」を高めることになった。
- 5) RATS の公式ウェブサイト情報, <http://ecrats.org/ru/situation/facts/5045?sphrase_id=284>, 最終閲覧日: 2016/11/29
- 6) *Доклад Совета Региональной антитеррористической структуры Шанхайской организации сотрудничества Совету глав государств – членов Шанхайской организации сотрудничества о деятельности Региональной антитеррористической структуры Шанхайской организации сотрудничества в 2004 году* (5 июля 2005 года Астана) (『SCO 加盟国の首脳会議のため 2004 年における SCO の RATS 執行委員会の活動に関する SCO の RATS 執行委員会の報告』, 2005 年 7 月 5 日), <<http://www.mid.ru/ns-rasia.nsf/3a0108443c964002432569e7004199c0/432569d80021985fc32570350039ead2?OpenDocument>>, 最終閲覧日: 2014/05/05
- 7) “Страны ШОС утвердили «черный список» террористических организаций”, *Информационно-аналитический портал*, 04.04.2006 (「SCO 加盟国は、テロ組織の「ブラックリスト」を成形した」情報分析ポータル, 2006 年 4 月 4 日), <<http://www.pr.kg/old/archive.php?id=6708>>, 最終閲覧日: 2014/05/05

8) 同上

9) ジュマンベコフ (Dzhenisbek M. Dzhumanbekov) は第3代 (2010-2012年) の RATS の執行委員会議長である。1945年生まれ、カザフスタンのザムビルスク出身の中将。

10) “РАТС ШОС: сообщает против терроризма”, *Центральный Интернет-портал Шанхайской организации сотрудничества «Инфо ШОС»*, 29.04.2010 (「SCO の RATS : 共にテロ対策」SCO 関連ポータル「インフォ・シヨス」, 2010年4月29日), <<http://infoshos.ru/ru/?hasFlash=true&idn=5810>>, 最終閲覧日: 2016/12/01

11) Звягельская И.А. “Исламское возрождение в Центральной Азии: причины и игроки”, *Восточная аналитика*, №3, 2012, p.29 (ズヴァゲリスカヤ I. A. 「中央アジアにおけるイスラム復興: 原因とプレイヤー」, 東アナリシス, 第3号, 2012)

12) “Исламское движение Узбекистана: В связи с гибелью Тахира Юлдашева назначен новый «эмир»”, *Информационное агентство «Фергана»*, 16.08.2010 (「ウズベキスタン・イスラム運動: ユルダシェフ死亡で新「首長」は決定」, 報道機関「フェルガナ」, 2010年8月16日),

<<http://www.fergananews.com/news.php?id=15388&mode=snews>>, 最終閲覧日: 2016/12/01

13) “Мятеж генерала Назарзода в Таджикистане финансировали зарубежные фонды”, *Информационное агентство России «ТАСС»*, 17.09.2015 (「タジキスタンでのナザルゾダ元副国防相の反乱は外資から資金提供を受けていた」, イタルタス通信, 2015年9月17日), <<http://www.interfax.ru/world/467359>>, 最終閲覧日: 2016/12/01

14) ヒズブアッタハリールは非合法化された組織であるにもかかわらず、様々な言語でウェブサイトがあり、積極的にソーシャルネットワークサービス (Facebook など) を使用している。

15) ウズベキスタンには公式では禁止されていないが、1999年から当事者のすべての識別されたメンバーが起訴している。

16) “Задержана глава ячейки женского крыла «Хизб ут-Тахрир», у которой обнаружены экстремистские материалы ИГИЛ”, *Официальный сайт Региональной Антитеррористической Структуры Шанхайской организации сотрудничества*, 25.11.2016 (「ISIS の過激派の資料を持ったヒズブアッタハリールの女性派の首長が収監された」, SCO の RATS 公式ウェブサイト, 2016年11月25日), <http://ecrats.org/ru/situation/analysis/6447?sphrase_id=271>, 最終閲覧日: 2016/12/01

17) “В Петербурге задержали членов “Хизб ут-Тахрир”, *Информационное агентство России «ТАСС»*, 08.11.2016 (「サンクトペテルブルクでは、ヒズブアッタハリールのメンバーを拘留」, イタルタス通信, 2016年11月8日), <<http://www.interfax.ru/russia/536060>>; “В Крыму задержали связанных с “Хизб ут-Тахрир” мусульман”, *Информационное агентство России «ТАСС»*, 12.10.2016 (「クリミア半島では「ヒズブアッタハリール」と関係があるイスラム教徒を拘束」, イタルタス通信, 2016年11月8日), <<http://www.interfax.ru/russia/532232>>, 最終閲覧日: 2016/12/01

18) Бабаджанов Б. “Феномен «Акрамия»: ложные идеалы и преступная практика”, *Большая Игра*, М., № 02 (08)/2008, p.41 (ババドジャノフ В. 「アクラミアの現象: 虚偽の理想と刑事練習」, グレートゲーム, モスクワ, 第2号 (08) 2008, p.41)

19) Reed T.J., Raschke D. (2010) “The ETIM: China’s Islamic Militants and the Global Terrorist Threat”, Santa Barbara: Greenwood, p. 47.

20) 2001年~2013年に組織の骨格はワジリスタン (パキスタン) に存在した。

21) Gunaratna R., Acharya A., Pengxin W. (2010) “Ethnic Identity and National Conflict in China”, N.Y.: Palgrave Macmillan, p. 61

22) “Eastern Turkistan terrorist killed”, *China Daily*. 24.12.2003, <http://www.chinadaily.com.cn/en/doc/2003-12/24/content_293163.htm>, 最終閲覧日: 2016/12/01

23) Gunaratna R., Acharya A., Pengxin W. (2010) “Ethnic Identity and National Conflict in China”, N.Y.: Palgrave Macmillan, p. 56-57

24) “Таджикистан и КНР обсудили расширение сотрудничества в борьбе с терроризмом”, *РИА Новости*, 28.10.2016 (「タジキスタンと中国はテロとの闘いに協力拡大を議論した」, RIA ノーボスチ, 2016年10月28日), <<https://ria.ru/world/20161028/1480216505.html>>, 最終閲覧日: 2016/12/02

主指導教員 (真水康樹教授)、副指導教員 (神田豊隆准教授・稲吉晃准教授)